

第1回 二級河川月光川水系流域委員会 議事概要

日時：平成29年8月31日（木）

13時30分～15時30分

場所：遊佐町生涯学習センター 大会議室

6 流域委員会 規約等について

(1) 規約（案）、傍聴規定（案）について

規約（案）および傍聴規定（案）について承認された。

(2) 委員長について

委員長は前川勝朗委員、副委員長は石垣敏勝委員となった。

7 議事

(1) 河川整備計画策定について

○：委員からの質問・意見

●：事務局からの説明・回答

- 月光川ダムは S53 に竣工してから年数が経過しているが、その効果などは整理されているのか？
- 幸いなことに月光川で洪水調節を行うような洪水はこれまでに発生していない。
- 渇水が生じた際に決められた容量以外に使用するようなダムの弾力的運用なども実施出来ないのか。
- 治水専用ダムで利水容量を貯めることが出来ないため実施できない。
- ショートカット区間は整備後の年数も経過しており後処理を実施して欲しい。
- 月光川頭首工の上流側にヨシなどが繁茂しており、このような流れでも月光川頭首工に入っているのか、川の中はいたずらしてほしくない。
また、ダムの上流の工事の際に巨石を割っているのはなぜか。
- 巨石をそのまま撤去するには受け入れ先がなく、国交省の高速道路の整備で受け入れてもらうために分割していた。
- 散歩しながら橋の上からサケの遡上を見ることが好きである。小さい頃は貝やドジョウなどをとって食べたりしていた。水がきれい自然災害が少ない川である。
- 魚の観察（フィッシュウォッチング）を考えている。月光川は水がきれい、川で魚を見

ることは水族館で魚を見るのとは違う。昼間は隠れていて見えないが、夜に月光川沿いを散策するとアユ、カジカなどを見ることができる。月光川でサケの孵化事業は20年以上実施していないため、現在遡上しているサケは自然産卵のサケである。月光川では間近で自然産卵しているサケを見ることができる。月光川は比較的規模が小さく、水深も深くなく、安全に魚を見るには良い環境なので、魚を安全に観察できるような場を整備して欲しい。

- 相談しながら考えていきたいと思う。

- 現状で尻引橋のあたりが一番危ないと思って見ている。上流側を改修したツケが尻引橋に来ているのではないか。尻引橋の区間を改修すると宮田橋の区間に負荷がかかるのではないのか。決壊・越流して困るのは朝日橋の上流の左岸と江地橋の右岸である。次は江地橋から宮田橋の間の右岸が危なくなると思っている。旧川を調整池のような機能として利用できないかとか、全体的に見ながら話をしてもらえるとありがたい。
- 集落を守るという点で自然堤防や遊水地の利用など、個々のところで策があるのではないか。高速道路なども整備されている、これも関わってくるのではないかとも思う。
- 高速道路自体を避難場所として利用している事例があり、車道とは違う所に避難場所を整備している。この場所でも検証の中で活かせるか考えていきたい。
- 高速道路のインター整備箇所（高瀬川の合流地点）は津波が到達するエリアである。うまく知恵を出して、多様な利用ができるようにして欲しい。高速が津波の堤防になったり、一石二鳥三鳥になるように考えられればと思う。
- 整備計画の周辺の施設などもあるので面的に見ることも重要である。
- 基本方針策定時に検討した資料や、津波関係でも現在公表している資料もあるので、面的な位置付け等は次回の委員会で提出したいと思う。

- 基本方針はどのように作成したのか。
- 県が主体でとりまとめ、国に申請し同意をもらっている資料である。すでに公表済みである。既存資料を利用したり、必要に応じて河道内・周辺環境の調査など実施してとりまとめたものである。
- 基本方針の環境の箇所で適切でない表記などがあるので、できれば修正をしたほうが良い。月光川は人を寄せ付けない（簡単には降りられない）川という印象である。水と触れ合うような工夫をして欲しい。
ヨシ群落が少なくなっており、オオヨシキリのなわばりもなくなっている。景観や植物群落の機能の観点からも検討して欲しい。個々の貴重種も大事だが、群落も大事だと思う。保護、保全も大事だが創出も大事である。水田、屋敷林などはあるが人里を緑豊かにして欲しい。
- 基本方針は公表済みのため修正は難しいが、文言は正式に修正すべきでもあるので個別に聞き取りなどをさせていただきたい。全ての指摘を修正することは難しいが、固有名称等の修正点をご教授いただきたい。

- 治水、利水の影響の無い範囲で子どもたちが川に降りて安全に遊べるような場所を整備して欲しい。

川は定期的な年変動で水がかぶる部分と、数年に一回の洪水で水がかぶる部分があり、その都度上流から土砂と一緒に流される。土砂をうまく流すことが重要で、支障木となる大木を生やさないためにも定期的にフラッシュされた方が良い。

- 今後の委員会で環境整備、施設整備の入れ込みができるかも含めて提案させていただくことになるかと思う。

第 2 回 二級河川月光川水系流域委員会 議事概要

日時：平成 29 年 11 月 1 日（水）

13 時 30 分～15 時 30 分

場所：遊佐町生涯学習センター 大会議室

○：委員からの質問・意見

●：事務局からの説明・回答

- そねた橋～尻引橋の区間はかなり湾曲しているが堤防の嵩上げは必要ないのか？
- 水理計算上は河道掘削のみで計画流量を流下できることを確認している。

- 尻引橋付近の右岸水路で河川水位の上昇時に合流する堰に逆流が発生しているが、対策は考えられているか？
- 現況流下能力が不足している区間であるため、水位が上がりやすい箇所である。河川整備計画に基づく整備完了後は現状より水位が低下し、逆流の頻度も少なくなると考えられるが、必要に応じて対策も検討していく。

- 尻引橋とそねた橋の間の湾曲部の河床が洗掘されている。調べて欲しい。
- 詳細の検討時に現地を確認し対応を検討する。

- 整備イメージ図における計画河床高と整備箇所はどこか？
- 整備イメージ図の赤線までの掘削、および護岸整備を想定している。
また、左岸側については極力手を付けない形を考えている。

- 掘り込み河道として掘削のみの整備を行う場合、洪水後は土砂の堆積によって再度浚渫が必要となり、何度も川に手を加える形となるため、築堤も考慮した方がいいように感じる。親水空間の整備について、具体的な内容と整備箇所が既に検討されていれば教えてほしい。
- 現状の河川敷内では可能な対策が限られているが、川に近付きづらい状況も把握している。地元とも協議しながら、用地が取得可能な場所があれば親水箇所の整備を検討していきたい。

- 素案 P.10 の一文目は主語をわかりやすい形に修正してほしい。
岡田のムクノキは千葉県の印旛沼から移植されたものであり、“自生”はしていない。
素案 P.10 で掲載されている文化財一覧は一部であるため、「一例」等の文言を追加し、天然記念物を充実させてほしい。
ドローン映像より、月光川の水辺環境は貧しいと感じた。ムクノキや河畔林について言及されているが、ほんの一部の区間であり決して豊かではない。河畔林を創造しなければ、現状からの変化は見られないと思う。

「生態をよく把握し」という文章は具体性に欠けるため、どのように把握していくのかを示した方が良いのではないかと。

「良好な環境を維持する」という文章では現状のままで良いと捉えてしまうが、より豊かな月光川を作っていくための計画としてほしい。

- 近年、平年値を上回る雨量が増加傾向にあるため、計画上も余裕を持っておかないと怖いと思う。

ムクノキ箇所左岸側について、「手を付けない」とは護岸等の補強も実施しないのか？整備計画における維持管理はインシヤル部分のみで、その後の維持管理はまた別の話か？流域の植生等を考慮してほしい。例えば、羽化したホタルの隠れる場所、魚の餌となる水生昆虫などの住める環境の確保などが必要である。

- ムクノキのある左岸側については、基本的にさわらない考えだが、現地の状況を確認の上、老朽化等があれば対応を検討していく。
維持管理は県内全体で言えることを掲載しており、土砂の堆積状況や樹木の繁茂状況によって、箇所を選定して進めているのが現状である。
樹木の伐採については全て伐採せず一部残す等の配慮をしたいが、月光川は川幅が狭いため難しい。専門の方に意見を仰ぎながら進めていきたい。

- 水害予防組合で遊佐町の堤防維持管理を行っているが、作業員も高齢化しており、草刈り等は大変な作業である。助成金の値上げ要望もさせてもらっている。

- 土地改良区では月光川の草刈りは実施していないのか。

- 月光川土地改良区では月光川の草刈りは実施していない。農業用水路の周辺のみ除草している。

ムクノキ下流の左岸側に第4号揚水機があるが、右岸側の河道掘削のみであれば影響はないと考えている。月光川のように川幅の狭い川で大規模な河道掘削を実施すれば、堤防はもたないのではないかと考えている。川幅が狭いから渇水期も水を供給しやすいが、広くなったら水の供給ができなくなるのではないと思う。現在の自然の水の流れを活用しなければ、灌漑用水の供給が難しくなることを懸念している。

- 除草作業員の高齢化は今後の課題として把握しており、解決に向けて対応していく必要があると思っている。

- 水不足については、河川維持流量の把握を行う必要がある。

土地改良区も灌漑用水の運用や補助金の利用等といった工夫も実施されているが、渇水時の対策を河川のほうでも考えておくようお願いする。

- 江地橋付近のショートカットに伴い、2つある集落が分断されてしまって大変だと聞いた。旧川の今後の利用方法等を検討してほしい。西通川の下流では洪水時に水田の浸水が頻発しているため、吹浦漁港での浚渫工事を実施し、流れをスムーズにしてほしい。

- 水田の浸水については、河川の氾濫または内水によるもの等が考えられ、原因を一概に特定することはできない。

- 今回の改修区間の中で、一般住民が安全に楽しめる親水空間を確保してほしい。旧朝日橋～遊佐中学校裏手あたりまでサケが遡上してきており、月光川は水深・流速も小さいため、サケの自然産卵等を間近で見ることができる貴重な場所である。工事の際にはサケの産卵に極力影響の少ない形で改修工事を実施してほしい。また、サケが産卵できる環境を残してほしい。

最高津波高はどれくらいを想定しているか？

- 今後公聴会も予定されており、地元の方々がどういった意見をお持ちなのか、把握していくことが重要であると考えている。親水空間整備は設置箇所の確保が重要で、そこからどういった配慮が必要かを本日の意見を踏まえて詳細設計等の段階で検討していきたい。サケの件についても、現在の流水箇所は極力手を付けないなどを配慮しながら工事を進めたいと考えている。

沿岸部では5～10m程度の津波高が想定される。

- 子供たちが安全に川遊びできるように地域の大人に協力してもらうことも必要と思う。子供たちの学習意欲を高める意味でも川は重要であり、故郷の原風景が記憶として擦り込まれるような環境にしてほしい。
- 気候変動の影響もあり他県でも水害が頻発していることから、河川改修事業は大変重要な事業であり、しっかりと予算を取って進めてもらいたい。